

人文情報学科のための Google 入門サイト
について

小島 弘貴

目次	
1 はじめに	1
2 テーマ	2
1 制作の理由	2
2 何をつくるか	2
3 入門サイトの必要性	3
4 既存の Google 紹介サイトの分析	4
5 入門サイトの目標	6
3 制作の前に	7
1 制作において重要な点	7
2 制作をするために	7
3 制作をする為の資料	8
4 制作における問題点	8
4 全体の構成	9
1 検索サービス	10
2 Gmail	10
3 カレンダー	11
4 ドキュメント	11
5 マップ	14
5 まとめ	14
1 アンケート評価	14
2 アンケート結果からの考察と改善	17
3 今後の課題	22
4 自己評価	23
6 おわりに	24

1 はじめに

私が所属する福田ゼミの卒業論文のテーマは、「人に役立つ Web サイトの作成」である。そして、私が卒業論文のテーマを考える際、「学生にはあまり知られていない便利なものを知ってもらいそれを有効的に使ってもらえたらな」と考え、それを紹介出来るものを自分で実際に作ろうと考えた。

今回、テーマに選んだものは Google⁽¹⁾である。何故、テーマを Google にしたかという、「私の周りにある便利なものは何だろうか」と考えたときに、人文情報学科であるからには情報関係、インターネットに関係したものをテーマにしたかった。そこでインターネットを使う際、検索する際に使うもの、人と情報を結ぶモノは検索サイトであるという考えに至った。そこで、2010年6月における検索エンジンの世界シェア 85%⁽²⁾、という圧倒的なシェアを誇る Google には必ずや便利なもの、サービスがあると考え注目した。実際に Google は検索機能が非常に優れていて、メールサービスのメール検索も他メールソフトと違いメールの検索がしやすく、見つけやすくなっている。他にもドキュメントといったダウンロードや購入をせずに使えるワープロソフトや表計算機能が備わっており、Web 上に保存出来るのでインターネット環境の備わったパソコンであれば、いつでも編集が出来る。これらのサービスを紹介すれば、ゼミ、授業や生活の中でわからないことがあったり、課題があったりした場合に役立つと考える。そして、Google のサービスを学生に知ってもらうため、入門サイトの作成を行っていただくと考えた。

2 テーマ

(1) 制作の理由

何故私が「Google 入門サイト」を作成しようと思ったのか。それは、Google にはメール機能、検索機能、地図機能など非常に多くのサービスがある。それらは非常に便利であるのにも関わらず実際に使いこなしている学生は非常に少ない。私の友達や知人に聞いたところほぼ全員が Google のサービスをほとんど知らなかった。Google には生活をする上で、インターネットを利用する上で効率化を図ってくれるサービスが多く存在しているのにそれらの機能は学生の周りではあまり知れ渡っていない。

そこで、誰でも見られる Web サイトを作り、Google の便利なサービスへの入門サイトがあれば便利なのではないかと考えた。中には画像や写真を共有する Picasa⁽³⁾ や、3D モデリングソフトウェアの SketchUp⁽⁴⁾ といったあまり人文情報学科とは関わりがなさそうなものもあるが、これらの紹介は省いていく。この省くか省かないかの判断は私自信の人文情報学科での学生生活を経験を基に、自己判断する。あくまでも人文情報学科の学生が授業やゼミ、私生活で利用するであろうサービスを紹介する。

ここで Google のサービスについてどのような制作をするかであるが、サービスを知ってもらうために入門サイトの作成を考えた。

(2) 何をつくるか

入門サイトをつくるにあたってどのような形式にするかであるが、考えは 2 つあった。1 つはブログ形式のサイトである。PHP でブログサイトを作り、そこにブログとして情報や説明を投稿する。メリットは、

日進月歩である Google は常に変化している。Google に新しい機能が追加された場合や、変更が合った場合はブログを投稿して簡単に対応できる。デメリットは情報が散漫してしまう恐れがある。カテゴリなどある程度の管理は出来るが、欲しい情報や案内がどこあるかわからず、辿り着いたとしても求めていた情報と違う情報に行き着く恐れがある。もう 1 つは、HTML による、Web サイトである。Google の変化に対して、逐一更新する必要があるが、CSS を使用し見やすいデザインにすることが出来、プログラムも簡単でわかりやすいサイトも容易に作成できる。

テーマが「人に役立つ Web サイトの作成」でありその上で入門サイトの作成を行う。なので、わかりやすさや見やすさ、使いやすさが非常に大切になってくる。わかりにくいサイトであれば人に役立つことはまずありえないからだ。そのような理由から Google 入門サイトを HTML 形式の Web サイトとして作成する。

(3) 入門サイトの必要性

学生生活、私生活を送る中で分からないこと、知らないこと、不便なことは必ず出てくる。例えば明日の天気や予定だったり、電車の時刻だったり、専門用語だったりである。それらを見つけてくれる、教えてくれるサービスが Google にはある。

しかし、Google には非常に多くのサービスがある。そこから使いやすい、または利用性の高いサービスを見つけたり、検索したりするのは手間がかかる。それに、どんなサービスがあるのか事前に知っておく必要がある。だが、興味や関心がなければサービスを調べることはほとんど無いと考える。Google のトップページも非常にシンプルな作りに

なっており、よく見たり、Google ヘルプセンター⁽⁵⁾ にアクセスしたりしないとサービスの一覧や紹介は見られない。また、サービスの存在を知っていても使い方を知らなかったり、わからなかったりする場合がある。

このような時に必要となってくるのがそれらを紹介し使い方を説明した、Web ページの入門サイトである。何故 Web ページかというと、ゼミのテーマが「人に役立つ Web サイトの作成」であるためでもあるが、Web ページにすることによりインターネット環境が備わったパソコンがあれば基本的にいつでもどこでも、無料で閲覧が可能である。そのため、市場に出回っている Google 活用本などを購入する際のコストもかからない。書籍を借りたり、それを持ち運んだりせずに簡単に見ることができる。

私はインターネットで入門サイトのようなものがあるか検索した結果 Google サービスについて紹介したサイトがいくつかあった。それらを私自身が使ってみたが、見づらく求めている情報がどこにあるのか、また本当にあるのか分かりにくく、不完全であるように感じた。これらのようなサイトでは、Google の便利なサービスや機能が埋もれ、情報を求めている人に情報を与えられていないと考える。そこで私は、人文情報学科の学生に向け授業や私生活で使いやすい Google 入門サイトの作成が必要であると考えた。

(4) 既存の Google 紹介サイトの分析

まず最初に見たサイト⁽⁶⁾ (図 1 参照) は、HTML 形式で 10 種類ほどの機能を紹介しているサイトである。しかし、ただ紹介しているだけで、リンクが貼られている箇所をクリックしてみると、ただ GoogleMap⁽⁷⁾

のページが開いたり、Google ヘルプページに移動するだけであった。このサイトは活用術というタイトルであったが、ただ Google へのリンクを貼っているだけで、説明などはなく紹介文しか記載されていなかった。また、紹介している機能も 10 個ほどで非常に情報に乏しい。このような情報不足が問題点であり改善が必要なところだと考える。

また、別のサイト⁽⁸⁾ (図 2 参照) はブログ形式で機能を紹介しているサイトがあった。1 つの記事に 1 つのサービスや機能について簡単に書かれている。1 ページに 3 つの記事があり、それが数ページある。カテゴリ別に分かれていて、わかりやすそうに見えるが、記事が 50 ほどあるのに対し、カテゴリは 5 つにしか分けられておらず、大雑把な分類になっていると感じた。分類が大雑把なのでどこにどんな情報があるのか分からない。そして、説明が簡単であり、画像もなくどんな機能なのかほとんど分からないという印象があった。

私が検索した Google のサービス紹介サイトの中で最も情報が詰まっていて、画像もあって一番実用性があると感じたサイト⁽⁹⁾があった (図 3 参照)。このサイトはブログ形式で書かれており、日常使用するにあたっての情報が十分にあり、カテゴリも多く分かれていて、探しやすい印象を受けた。記事にはサービスや機能の簡単な説明と画像がありわかりやすくなっている。さらに、ただ簡単な説明だけで終わるのではなく、「続きを読む」というボタンをクリックすると、そのサービスなどの使い方など詳細のページに移るようになっている。こうすることによって、サイトに文字がびっしり並んでいるだけの状態を避け、利用者の見たい記事が探しやすくなっていると感じた。これらのことから内容や情報の量、見やすさは申し分ない感じであった。

しかし、私がこのサイトから感じた問題点は、分かりにくいというこ

とである。多くのカテゴリで分類はされているが、探している情報があるかは分からない。ある情報を探している時に、あるカテゴリ内にある 50 件ほどの記事を全部見た挙句、探していた情報がなければ無駄足となる。私はこの場合、カテゴリを開いた時に、すぐに紹介記事を表示するのではなく、どんな記事があるのか一覧で表示するなどといった工夫をし、利用者により分かりやすくする必要があるのでないかと考えた。

(5) 入門サイトの目標

様々な Web サイトを見た結果、先ほど述べたような欠点があったので制作する入門サイトは見やすくわかりやすいサイトを目指す。大雑把な目標ではあるが、実際に利用しやすく役立つサイトは見やすさや、わかりやすさが大きなポイントとなることが既存の Google 紹介サイトを見た時に感じたので、この目標は私に合っていると考えた。

それでは、見やすいサイトとはどのようにすればいいのか。まずは、説明文などの文字の量を必要最低限に抑えることである。長い文章はパソコン画面では非常に見にくくなってしまう。詳細や補足などはリンクを貼り、別ページに移動するように作成する。

次に視覚的な問題であるが、当然文字だけで説明や紹介をしても分かりやすさに欠ける。そのために、紹介をする時、画像を表示する。説明する時もわかりやすくするため画像を表示させ、作成した入門サイトを見ながら、Google の機能を使えるようにする。

3 制作の前に

(1) 制作において重要な点

私が今回卒業制作で「Google 入門サイト」を作成するにあたって、重要とする点は次の 2 点である。

まず 1 つ目に分かりやすさ、使いやすさに重点を置いたサイトにする。既存の入門サイトを見て使いやすさ、情報量、わかりやすさに欠けている点があると感じた為である。

2 つ目に人文情報学科の学生を一番の利用者として考え、ある程度の知識はあるということを前提に作成する。常識的な情報まで載せると、無駄な情報が増え、返ってわかりにくくなるからである。

(2) 制作をするために

Google 入門サイトを制作するためにまず必要なのが、当然であるが私自身が Google のサービスを学ぶということである。私はこれまでに GoogleMap や Gmail⁽¹⁰⁾ などといったサービスを利用してきた。実際に利用したサービスは少ないが、それだけでも多くの機能があった。まだ利用していないサービスも当然、多々あった。そのため、まずは Google のサービスを使ってみることから始めた。

私が Google のサービスを学ぶために利用したのは、主に『Google Apps の教科書』という参考書と Google ヘルプページである。既存の Google サービスの紹介サイトでは、情報が少なかったり、大まかな紹介文しか書かれていないサイトが多かった。それに比べ参考書やヘルプページは、情報が多く掲載されており、説明文も詳しく書かれている。私が制作するのは入門サイトであるが、既存の Google サービス紹介サイトで学ぶよりも、内容が詳しく書かれている参考書を利用する方が、

学ぶ際に適していると考え、尚且つ、作成の際も役立つと考え利用することにした。

(3) 制作をする為の資料

まず入門サイトを作りやすくするために Google のサービスや機能を実際に使い、機能名や説明をノートに書き出していくという作業をした。この際に参考書やヘルプページを利用した。利用した参考書やヘルプページには補足や詳しい情報がきちんと書かれているため、抜け目なく機能やサービスの紹介が出来るという点から適していると考えた。

サービスや機能をノートに書き出していくなかで必要となってくるのが、機能などの絞り込みである。人文情報学科向けの Google 入門サイトを作るために、まずは私自身が学生時代使っていた機能をノートに書き出し、さらにこれからの福田ゼミを始め人文情報学科の学生が利用するであろう機能を書き出した。そして説明文は、参考書では詳しく丁寧に書かれているが、文が長くなると、見にくくなるので、ヘルプページと参考書の内容を要約し出来る限り簡潔な文章にすることを心掛けた。

必要な機能、サービスを書き出した後、利用できそうな機能の漏れは無いか今一度 Google を見て確認し書き出しの作業を終えた。

(4) 制作における問題点

計画で最初に問題になったのが、Google は日々進化しているということで、どのようにページを作成するかということであった。初めは頻繁に Google のサイトを訪れて更新がないか、変化がないか確認しようと考えたが、数百ページあるサイトを隅から隅まで見て回るのは時間が掛かり、効率が悪かった。別の方法が分からず、悩んでいた時に、指

導教員の福田洋一先生に「Google は毎日のように変わっているからあるところで区切りを付けて、作成しなさい」というアドバイスをもらった。更新に関してだが、Google にはブログ⁽¹¹⁾ があり、そこで更新の最新情報が見れることも教えてもらった。これらのアドバイスをもとに毎日ブログを見て更新情報を確認し、出来る限り最新の情報を載せられるように 2010 年 12 月 1 日まで入門サイトを作成した。

次の問題は、数ある Google サービスの中からどのサービスを入門サイトに載せるか、という点であった。Google にはアラーム⁽¹²⁾ やブラウザ⁽¹³⁾、マップなど検索サービスだけでなく様々な機能が備わっている。非常に多くのサービスが備わっているので、すべてを入門サイトに載せることは困難であった。そこで、人文情報学科の学生が利用できそうな機能を参考書を見たり、私の学生生活を元に、厳選した。そして、その結果 5 つのサービスを載せることにした。

4 全体の構成

最初に TOP ページにどういうサイトなのか簡単に説明し、Google のアカウントの取得について説明しておく。サイトで紹介する機能のほとんどはアカウントが必要となる。なので、最初に見るページである、TOP ページにアカウント取得を促すようにした。左メニューは文字サイズを大きくしわかりやすく表示した。

サービスごとの内容は機能一覧を表示してから、詳細ページへ移動する。機能一覧ページで 10 から 20 項目ぐらいの機能を紹介し、さらに詳しく紹介したい場合は「詳細」というリンクを貼った文字を書き込み、そこから詳しく説明したページに移動することができるようにした。このことにより、機能一覧ページが長くなり過ぎず見やすくなると

考える。各サービスへのリンクはサイドメニューに一覧として設けておく（図 4 参照）。こうすることにより見たいサービスを選んですぐに移動が出来る。詳細のページは、Google のどこの部分を説明しているのかを明確にして、わかりやすいようにする（図 5 参照）。

トップのアカウント取得画面を完成させ、次に各ページを作成することにした。基本的には書き出したノートや参考書の内容を基に書いていく。以下が、各ページの内容である。

(1) 検索サービス

最初の項目では Google の代表機能ともいえる検索サービスの紹介をしている。初めに検索のワザの必要性、つまり時間の効率化について述べ、次に Google の検索ページ、検索結果ページの解説をしている。検索、検索結果のページを紹介することで、スムーズな操作と深い理解が得られると考えた。次に検索機能の紹介である。画像を挿入しわかりやすくしたり、検索のワザを使用した場合と使用しなかった場合を比較して、そのワザの利用方法を理解できるようになっている。

また、利用が難しいであろうワンダーホイールやタイムラインには詳しく説明している別ページへのリンク（図 6 参照）を貼っている。

(2) Gmail

Gmail とは、専用ソフトをダウンロードや購入などせずにブラウザさえあれば利用出来るメールサービスである。検索に特化している Google だけでなくメールの検索も精度の高いものになっている。このページでは簡単な紹介と、どのようにアクセスするかなどを新たに記載している。ここで「Google トップページからアクセス」と記載してい

るが、入門サイトを見ながらアクセスしてもらい、機能を学生に実際に使ってもらう為に、「google トップページ」をクリックすると別窓が開くようになっている（図7参照）。機能の紹介では基本であるメールの新規作成から、受信メールの振り分け、迷惑メール防止といった便利な機能を紹介している。ここでも詳しく説明している詳細のページを別に設けている。詳細ページでは順を追って説明していき必要であれば画像を挿入し、クリックするところは赤線で囲むなどわかりやすい解説を目指した（図8参照）。

(3) カレンダー

Google カレンダー⁽¹⁴⁾ はオンラインサービスの予定表なのでパソコンさえあればどこでも確認や予定の記入が出来るサービスである。授業の予定や、就職活動の際も強い味方になってくれるに違いないと考えた。紹介ページでは同じようにアクセス方法、機能紹介をして、詳細ページを設けている。詳細の説明も画像を使いながら説明している。

(4) ドキュメント

Google ドキュメント⁽¹⁵⁾ とはブラウザ上で使えるオフィスソフトである。ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどの機能を備えている。課題や授業で Word や PowerPoint を利用することがあるので、活用できるのではないかと考える。このページでは最初にアクセス方法を記載している。ドキュメントを利用するにはアカウントが必要なのでサインインする過程もここで紹介している。次に、文章やフォームといった各サービスへの紹介ページに移動する。最期に5つのサービス（文章、プレゼンテーション、スプレッドシート、フォーム、図形描写）に共通す

る機能、アップロード、インポートについてのリンクを貼っている。

また、文章などで作成したデータを Gmail に添付し、送信できたり、URL を他ユーザーに教えることで、ブログなどでの一般公開や共同編集が出来ることが利点となっている。

(i) 文章

文章とはブラウザ上で使えるワープロソフトである。文章は Word に比べ基本的な機能しか備わっていない。しかし、その分デザインは非常にスッキリとしている。選択できる色や書体などは圧倒的に少なく、縦書きも出来ないが、特殊文字が利用出来たり、ルートや分数のような複雑な計算式も表示できる所が利点である。

このページでも画像を交えながら機能を紹介している。人文情報学科の学生に Word を始めとしたワープロソフトを利用したことのない学生はほとんどいないと考え使い方の説明は割愛している。

(ii) プレゼンテーション

プレゼンテーションとはマイクロソフトの PowerPoint のようなものである。やはり、プレゼンテーションも PowerPoint と比べ、劣っている部分はあるが、ウェブ上でプレゼンテーションを行う事が出来る。その際に、他ユーザーとチャットが出来るところが利点である。他にも動画の挿入に YouTube を利用できるなど特徴がある。ここでも説明は割愛し、画像を交えた紹介だけにして、解説は一部でしかしていない。

(iii) スプレッドシート

スプレッドシートとは Excel のような表計算ソフトである。基本的な表計算ソフトの機能を備え、独特の機能がいくつも備わっている。

その1つ目が Google 関数である。普通の表計算ソフトには合計を求める SUM や平均を求める AVERAGE があるがスプレッドシートには

それに加え、特殊な関数がある。会社の株価を求める GoogleFinance や、人や場所に関するデータを求める GoogleLookup などである。これらは表のセルに記入すると、自動的に求めてくれる。これは関数を入力すると Google が自動的に検索し、その結果を表示してくれる。ので、わざわざある会社の株価や、国の人口を検索サイトで調べて、入力するという手間が省ける。

2つ目は、ガジェットである。この機能は Flash ベースのグラフを作り普通のグラフでは表せないような、図を表示させる。なにかの数の推移を動画のように再生したりすることもできる。

3つ目は、画像を URL から挿入できる点である。わざわざパソコンに画像を保存しなくても URL を入力するだけで Google で検索され挿入することが出来る。

4つ目は、Quick Sum 機能である。この機能は関数の SUM や AVERAGE を使わなくても、セルを選択するだけで右下に合計、平均、カウント、最大、最小の値を表示してくれる。

これらが主な利点である。これらの利点は他にはない機能なので別の解説ページを設け、説明している。

(iv) フォーム

フォームというのはオンラインでアンケートを作成する機能である。このページでは、アンケートの作り方ではなく、アンケートの形式の紹介のページとした。アンケートフォームの作り方は非常に簡単であったため、数種類あるアンケートの使い方の例を記載した。また、アンケートを取った後、スプレッドシートで集計をしたり、集計の詳細を見られるのが特徴であったので、その紹介も行っている。

(v) 図形描写

このページでは文章やプレゼンテーションに挿入できる図形の紹介をしている。珍しい図形があり、その図形の色や線の太さ種類が変更出来るところが利点となっている。

(vi) アップロード

ここでは、Word や Excel などのデータを取り込むことの説明をしている。ドキュメントではそれらデータを取り込み文章やスプレッドシートで編集することが出来る。アップロードが出来るデータの種類が決められているため、それらについても各サービスごとに記載している。文章、スプレッドシート、プレゼンテーションに共通している機能なので各ページに記載せず、このページにまとめて記載した。

(vii) エクスポート

上記のアップロードと同様にこのページでも、共通している機能なのでまとめて表示している。各サービスごとにエクスポート出来る形式、出来ない形式を記載した。

(5) マップ

このページでは、マップ操作がやや難しいため、すべての項目を詳細ページで説明している。操作するボタンの説明から、ブログやサイトへの埋め込みまで記載している。

5 まとめ

(1) アンケート評価

予想以上に作成に時間がかかり、もっと時間をかけたい部分もあったが、なんとかベータ版を作成し、テストをしてもらい、使用した感想や

意見などアンケートで答えてもらった。自分では気づくことの出来なかった、全体の見やすさや、使いやすさ、良い点、悪い点など客観的な意見をもらえ、参考になるものであった。

質問は以下の 7 つである。

■質問 1 Web サイトを 5 段階評価であてはまるものに○をする

■質問 2 改善すべきところ

■質問 3 気になるところ

■質問 4 情報の不足しているところ

■質問 5 良いところ

■質問 6 悪いところ

■質問 7 感想

それぞれの質問についての解答は以下の通りである。

(i) 質問 1

質問 1 では以下の 4 項目を 5 段階評価してもらった。5 が一番良く、1 が一番悪い評価である。それぞれの項目で一番多かった評価が以下である。

- ・ 使いやすさ 4
- ・ 見やすさ 4・3
- ・ わかりやすさ 5
- ・ デザイン 4

(ii) 質問 2

改善すべきところ

- ・ 文章と画像の境界線が分かり辛いので、画像に枠が欲しい。
- ・ 説明文が全部黒字なので、重要部分は赤字にして欲しい、読んでいて疲れる。
- ・ 詳細ページが多いので、メニューを改善して。
- ・ 見出しが分かり辛い。 など

(iii) 質問 3

気になるところ

- ・ 1 ページが少し多い。
- ・ アカウントを作成したけど、次にどこへ行くか迷う。
- ・ 全て左に寄って見えるので、それぞれ padding やインデントが欲しい。
- ・ フォントのサイズがほとんど同じなのが少し見にくいです。
- ・ それぞれ詳細の最後に戻るボタンがあればうれしいです。

(iv) 質問 4

情報の不足しているところ

- ・ 文章の解説がもうちょっとあればいい。
- ・ 情報の量は多くて良い。

(v) 質問 5

良いところ

- ・ 知らない事とかが多かったので便利で良い。
- ・ それぞれの機能について詳しく書かれているので良い。
- ・ 情報量が多い。
- ・ 細かく画像を使って説明されているので、一目でわかりやすい。
- ・ サンプルを貼って説明してあるので、わかりやすい。
- ・ 詳細が別のページにあり、良い。

(vi) 質問 6

悪いところ

- ・ メニューをアレンジして、デザインしたら良い。
- ・ 文字の大きさや色にメリハリがなく、読みづらい。
- ・ 「です、ます」調か「だ、である」調か統一すべき。
- ・ 量の多いページではメニューに戻るのが面倒。
- ・ 見出しが分かりづらく、内容を 1 文字分下げるなどして区別をつけてほしい。
- ・ 普通の文と小見出しが紛れている。

(vii) 質問 7

感想

- ・ 大量の情報が詰まっていて、知らなかったことも多くもっとじっくり読みたい。
- ・ 説明などわかりやすく、グーグルを使いたくなった。
- ・ 単位換算や辞書検索を知らなかったので、勉強になった。
- ・ 全体のデザインがシンプルかつきれいな配色なので良い。
- ・ シンプルで教科書のような作りがわかりやすくもあり、飽きやすくもある。
- ・ 沢山の情報から自分の知りたい事を探すのが大変そう。

(2) アンケート結果からの考察と改善

(i) 質問 1

質問 1 では 5 段階評価してもらうことにより、点数で評価を得られると考えこの質問を作った。

まず使いやすさである。一番多かったのが 4 であった。やや良いとい

う評価であるが、この結果となったのは知らない機能、知られていない機能を紹介した結果であると考え。検索のワザからマップの使い方まで紹介したので、情報の多さがこの評価を得たと考え。しかし、ただ単に情報が多いだけの評価なら 5 を得ることが出来たはずである。情報が多すぎあまりに使いづらく感じた人もいたのかもしれない。感想にもあった通り、飽きやすい内容だったのかもしれない。これらの要因が 4 という結果に至った原因と考える。

次に見やすさである。これは 4 と 3 という評価が多かった。普通から、やや良いという評価である。質問 6 の悪いところで指摘があったので、そこが原因と考える。見やすさを重視してサイトを作成してきたが、いい評価を得られず非常に悔やまれる結果であった。

次にわかりやすさである。これは 5 の評価を得た。人文情報学科に向けた入門サイトなのでわかりやすさは重要なポイントとなってくる。そこで好評価を得られたということはこの点は上手に作れたのではないかと考える。

最期にデザインである。評価は 4 を得られた。福田ゼミは情報デザインコースなのでデザインという項目を入れた。私自身の問題であるが、制作に時間が思った以上にかかり CSS によるデザインが満足いくまで出来なかった。しかし、短い時間ながらもシンプルで見やすい配色を心掛けていたので、十分ではないかと考える。

(ii) 質問 2

改善すべき点については、まず文章と画像の境界線が分かり辛いので、画像に枠が欲しいというものである。改めて入門サイトを見てみると、検索のページなどで説明文と画像の文章が混同しているように見える部分があった。説明文と画像の文字が混同し分かりにくい画像には困

い線をいれ、改善をした（図 9 参照）。

続いて、説明文が全部黒字なので、重要部分は赤字にして欲しい、読んでいて疲れるという意見である。確かに重要な部分は赤字で表示してあれば、目立つ。しかし、私はクリックすべきところを太字で表示している（図 10 参照）。なので、赤字で強調するということはしないという結論を出した。

次に詳細ページが多いのでメニューを改善して、という意見についてである。アンケートを書ってくれた学生のコメントによると、詳細ページが多いので、左メニュー部分に、詳細ページをまとめて表示して欲しい、というものだった。しかし、プレゼンテーションのページなどには 10 を超える詳細ページがあるので、それを左メニューにまとめて表示させると今度は、メニューが長くなり、見にくくなってしまうと考える。よって、メニュー部分は改善しないという結論とする。

次に、見出しが分かり辛いという点に関してである。学生がどの部分の見出しについて記入しているかはっきりと分からないが、見出しには CSS で文字背景の色を変えているので、見出しではなく、小見出しが分かり辛いと判断する。気になるところ、悪いところのアンケートにも、「見出しが分かりづらく、内容を 1 文字分下げるなどして区別をつける」、「普通の文と小見出しが紛れている」という意見があるので、間違いないと考える。確かに、改めて見てみると小見出しと説明文が同じように左寄せになっていて、さらに小見出しと説明文の文字の大きさも同じところがあるので、分かり辛くなっていた。説明文にスペースを入れ、小見出しから 1 文字分下げて改善した（図 11 参照）。

(iii) 質問 3

ここでは、ふと気になったことを記述してもらいたいと思いつけた質問である。まず、1 ページが多いということである。紹介したい機能も多く、解説も画像を使用しながら説明しているのでどうしても多くなってしまふ部分がある。しかし、これはわかりやすさを重視した結果であり、わかりやすさのアンケートで高評価を得た根拠でもある。よって、この多さの改善はしないこととする。

次に、アカウントを作成したけど次にどこへ行くか迷う、というアンケートである。確かに、アカウントの取得を促しただけの、勝手な内容となっている。「取得後は左メニューから好きなページに移動し機能を実際に使ってください」という文をいれ対応とする (図 12 参照)。

フォントなど見づらさの問題は改善したので、次はそれぞれ詳細の最後に戻るボタンがあればうれしい、についてである。説明や紹介が長いいちいちページ上部にあるメニューに戻るのが面倒ということである。悪いところのアンケートにも記述されていた。解説が長いページにのみ戻るボタンを作成し対応とする (図 13 参照)。

(iv) 質問 4

次に情報が不足しているところについてである。文章の解説がもうちょっとあればいいという意見があった。質問 3 でも述べたように情報、解説が長くなると見づらくなる。それに、わかりやすいという評価も得ているので、この改善はしない。

(v) 質問 5

次に良いところについてである。情報の多さ、わかりやすさ、などという点での評価が多くみられた。これは私自身でも重視していたところであるためわかりやすさについては成功と考える。さらに、知らないこ

とが多く便利である、という評価も得た。便利なものを知ってもらいたかったので、興味を持って使ってもらい、今後役立ててくれるのではないかと考える。

(vi) 質問 6

次に悪かったところについてである。まず、メニューをアレンジして、デザインしたら良いという意見である。質問 1 でも述べたように、思った以上に時間がなく、見かけやデザインに力をいれる余裕がなかった。これは非常に反省している点である。私の実力不足のため、この問題に取り組むことは出来なかった。

他には、読みづらい、見出しが分かりづらいという意見があった、これは質問 2 で改善した。ですます調については、不快感を与えかねないので改善を行う。

(vii) 質問 7

最期に感想についてである。Google のサービスに興味を持ってくれた学生がいたので非常に嬉しく感じた。飽きやすい、という意見に関しては、質問 2 など指摘があったのでそれにより少しでも改善できたのではないかと考える。沢山の情報から自分の知りたい事を探すのが大変そう、という意見に関してだ。私は作成において、出来るだけ大変になることは避けたと考えている。カテゴリも分け、1 つのサービスにつき、1 ページで紹介している。知りたいことがあれば機能一覧の 1 ページの中から探せるようにしている。1 ページの中に機能は 10 から 20 個ほどしかないので、そう大変な作業ではないと考える。

以上により、以下の点を改善した。

- ・ 説明文と画像の境界線が分かりづらかった箇所には、画像に囲い線をいれた (図 9 参照)。

- ・見出しが分かり辛かった箇所には、説明文にスペースを入れてずらした (図 11 参照)。
- ・アカウント取得後の案内については、「取得後は左メニューから好きなページに移動し機能を実際に使ってください」という文を追加した (図 12 参照)。
- ・戻るボタンについては、解説が長いページにのみ戻るボタンを作成した (図 13 参照)。
- ・ですます調については、統一を行う。

(3) 今後の課題

アンケートに協力してくれたゼミの 3 回生からは、入門サイトの内容に関してはそれほど指摘を受けず、見た目についての指摘が多かった。しかし、デザインなどの課題は残った。

使いやすさの面では、不十分だと考えている。情報は多いのだが、説明文が小見出しと混同したり、画像と混同したりしていたで、まだまだ改良の余地は残っていると考えている。

見やすさの面では、結果的にシンプルなデザインとなってしまった。入門サイトとしては、まだまだで完成には程遠いと感じる。例えば、左側のメニューである。アンケートでも指摘されていたが、サイトとしては単調すぎで地味に感じる。紹介分が書かれたメインの部分も同じである。CSS を駆使して、レイアウトを変え見やすくし、文字の色、大きさ、その背景も変更し、入門サイトとして見合うものにするよう考えている。

わかりやすさの面では、分かりづらいであろう箇所には、詳細ページを設けて詳しく解説すればわかってもらえると考えていた。しかし、結

果的に長く見づらいという意見があった。わかりやすさで好評価を得たが、ベータテストをしてくれた学生の中には、わかりやすく感じられなかった人もいたと考える。好評価を得たので、満足と受け止めるのではなく、更にわかりやすくなるような工夫を今後加えていきたいと考えた。

(4) 自己評価

入門サイトを作成しての反省点は、最初に Google をテーマにしようとした時に、ヘルプページもあるので理解に苦しむことはないだろうと、軽く考えて取りかかってしまったことである。いろいろなサイトや参考書を読んで勉強しているうちに予想以上に機能やサービスが多く、理解に苦しむ箇所もでてきた。その度、進行が滞り、予想以上の時間がかかってしまった。そのため、説明や解説に手が取られ、デザインやレイアウトに掛ける時間を削り、完成を急ぐ結果になってしまった。

このようになったのは、私自身の計画性の甘さが原因である。テーマを Google とした時に、下調べの時点でサービスの多さに気づき計画を早めていれば防げた事態であった。これから先、今回のようなことがあった時は、残り時間をしっかり把握し、時間を逆算しながら作業や計画を実行することが重要と考えた。

また、サービスを紹介するにあたって、どこまで解説すれば十分なのかを判断するのに苦戦した。どれだけ解説すれば相手にとってちょうどいいのか、という点を見極めるのが困難であった。基本的な事を書けば、分かりやすいのだが、理解している利用者にとってはその分無駄な情報が増え、見づらいページとなってしまう。しかし、基本的な内容を省略すると、わかりにくいページになりかねない。私はサービスを一通

り利用した上で解説しているの、初めて利用するユーザーとは違う目線で解説をしていたのかもしれない。相手の為に何かを作成するという事が非常に困難であると実感した。

6 おわりに

今回初めて、入門サイトを作成したが、制作物の完成度はなんとか使用出来るレベルだと考えている。アンケートにもあったように、やや見づらい点は残るが、説明文や解説には問題はないであろう。しかし、自己評価としては完全に出来たとは考えていない。アンケートで私が気付いていない点、気付けなかった点など様々な指摘を受けたからである。

入門サイトは、自分で使用することも出来るが、本来の目的は、分からない人、知らない人に使ってもらい、活用してもらうものである。だからこそ、指摘を受けたところを改善するだけでなく、感想などを元により良いものを作っていくことが出来ればと考えている。入門サイトは利用者の立場から伝えるということが、大切であると考えている。

注

- (1) <http://www.google.co.jp/>
- (2) <http://journal.mycom.co.jp/articles/2010/07/09/google-share-worldmap/index.html>
- (3) <http://picasa.google.co.jp/>
- (4) <http://sketchup.google.com/intl/ja/>
- (5) <http://www.google.co.jp/support/>
- (6) Google 徹底活用術
<http://tahoo.fc2web.com/google.html>
- (7) <http://maps.google.co.jp/>
- (8) Google 徹底活用法
<http://gugurukatuyouhou.seesaa.net/>
- (9) Google Mania - グーグルの便利な使い方
<http://google-mania.net/>
- (10) <http://mail.google.com/mail?hl=ja>
- (11) <http://googlejapan.blogspot.com/>
- (12) <http://www.google.co.jp/alerts?hl=ja>
- (13) <http://www.google.co.jp/chrome?hl=ja&brand=CHMI>
- (14) <http://www.google.com/calendar/render?hl=ja>
- (15) <http://docs.google.com/>

文献表

中田 平 + 後藤 昌人 + 加藤 久昭

2010 『Google Apps の教科書』海文堂

——人文情報学科のための Google 入門サイトについて——

Google ヘルプページ

<http://www.google.co.jp/support/>